

令和4年度 能登町立能都中学校 学校評価 考察・改善（最終）

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ② 生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ③ 教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。			○行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。 ○毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。 ○適時的に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。			
質問内容			判定		R4 中間	
教職員	①	目指す姿を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	A	100.0%
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A	100.0%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	85.7%	A	100.0%
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	92.8%	A	100.0%
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	A	92.8%	B	80.0%
生徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	A	86.0%	A	88.7%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	99.2%	A	99.2%
保護者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	89.2%	A	93.7%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	92.3%	A	97.8%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	A	93.6%	A	93.6%
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	96.0%	A	100.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	96.0%	A	95.8%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

◎ 奥能登で小規模な地震が続いたこと、積雪が多かったことなどから、非常災害時の安全について指導するだけでなく、生徒に考えさせる機会をもつことで指導の意識が高まった。

◎ いじめアンケートやQ Uテスト（学級の分析ツール）などを行い、いじめや不登校の未然防止に努めている。教育相談では、月に一度希望をとったり担任による面談をこまめに行ったりするなどして相談の機会を増やす工夫をしてきた。

△ 生徒アンケートの「学校へ行くのは楽しいと思う」、保護者アンケートの「お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ」の回答が中間報告に比べて低くなっている。学校生活の充実や人間関係づくりに力を入れていく。

【参考】いじめ認知件数 4件（中間報告後1人増加、R3より3件）

不登校生徒数 4人（同1人増加、2月21日現在で4名が長期欠席）

(2) 生徒の確かな学びを保障する学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 生徒一人一台端末を積極的に活用し、個別最適化された教育の実現に努める。			○積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。			
② 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。			○生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。			
③ 体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科横断的な学びを推進する。			○体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。			
		質問内容	判定		R4 中間	
教職員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	92.3%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	91.7%	A	86.6%
	⑨	個別最適化された学びの実現に向けて工夫している。	A	91.7%	A	93.3%
	⑩	授業では、積極的に学び合い活動を取り入れている。	B	83.3%	A	100.0%
	⑪	学び合い活動で、生徒は学び楽しさを感じている。	B	83.3%	A	93.3%
	⑫	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	B	75.0%	B	73.3%
	⑬	自然や社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	B	83.3%	A	86.6%
	⑭	授業では、生徒一人一台端末を積極的に活用している。	B	75.0%	A	86.6%
	⑮	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	C	58.3%	A	93.3%
	⑯	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	A	93.3%
⑰	生徒の家庭学習の状況を把握し、学習時間が増えるように繰り返し指導している。	B	75.0%	B	80.0%	
生徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	94.2%	A	92.7%
	A2	授業では、自分の考えを発表する場面が与えられていると思う。	A	95.7%	A	92.7%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	96.4%	A	95.2%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	96.4%	A	97.6%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると思う。	B	81.3%	A	87.1%
	A6	授業の自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思う。	B	77.0%	A	85.5%
	A7	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	A	91.4%	A	99.2%
保護者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	80.1%	A	85.1%
	⑦	お子さんは、毎日1時間以上の家庭学習をしている。	C	65.2%	C	66.0%
	⑨	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノー（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	47.5%	C	65.9%
	⑩	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	74.5%	C	66.0%
判定基準	A（肯定回答85%以上）、B（70%以上）、C（50%以上）、D（50%未満）					

【考察・改善】

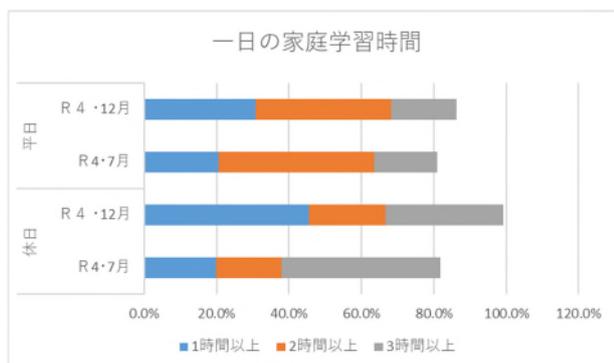
△ 授業においては、研究主題「根拠や筋道を明確に表現する生徒の育成」のもと、生徒が自分の考えを「書く力」の育成を目標としてきた。2学期は書いた自分の考えを、学び合いの中で伝え合い、よりよい表現を追求することを目標とした。しかし、まず最初に「自分の考えを持つ」ことが不十分であるため、学び合いが深まらなかった。そこで、3学期は、最初に「自分の考えを持つ」ことに主眼を置き直して、「既習事項の復習」や「生徒に書かせたい文章を事前に教師が書くこと」など、共通実践している。生徒アンケートからは、授業に対して前向きに取り組んでいる肯定的回答は多いが、自分の考えを表現することに関しては、肯定的回答は少ない。授業の中で場を設定し、経験を重ねることで、力を伸ばしていきたい。

△ 家庭学習時間については、平日・休日ともおおむね横ばいであった。家庭学習課題の量を調整したり、課題の提出を徹底したりするなど、生徒1人1人の現状を変えていく必要がある。また、家庭学習時間はインターネット利用の時間と大きく関係があるので、家庭の協力を得ながら取り組んでいける仕組みを考えていく必要がある。

☆ 県評価問題の結果（2年生を対象に12月実施）

12月に石川県内の2年生を対象に行われた評価問題の結果（正答率）は、県平均と比べて国語、英語、数学ともマイナス約10%であった。結果の分析からは、「各教科の基礎・基本の定着が不十分である」ことが分かった。この結果を踏まえ、3学期の取組で授業づくりの主眼を置き直している。

〈3ノールの取組〉



	1年	2年	3年	全校
テレビ	71.2%	82.9%	88.0%	82.2%
ゲーム	92.4%	72.1%	90.0%	83.7%
SNS	72.3%	68.8%	83.3%	75.2%

各学年の合格者割合 (%)

能都中検定	1年生	2年生	3年生
国語(漢字)①	98.2	91.5	93.2
国語(漢字)②	97	89.8	92.4
社会①	94.1	84.5	83.6
社会②	2/28実施	2/28実施	2/28実施
数学(計算)①	87.2	85.2	86.8
数学(計算)②	3/17実施	3/17実施	—
理科①	93.6	93.6	98.1
理科②	93.9	93.2	96.4
英語(単語)	87.4	67	78.3

合格：80点以上

〈GIGA 公開研究発表会 11/17〉



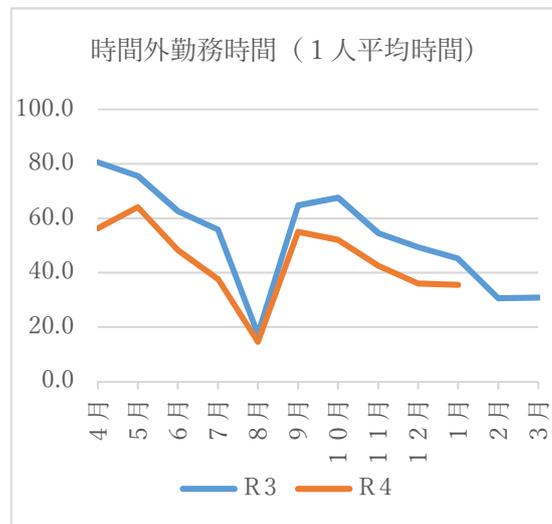
(3) 教師の研修意欲が高い学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ② 人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ③ 日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。			○日々の業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。 ○授業中、生徒を指名する際は呼び捨てにしない。 ○報告・協議事項は事前に紙またはサーバー内で文書化し、周知する。			
質問内容			判定		R4 中間	
教職員	⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	A	100.0%	A	93.3%
	⑲	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	91.7%	A	93.3%
	⑳	授業中、生徒を指名するときは呼び捨てにしていない。	A	91.7%	A	86.7%
	㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	A	96.7%	B	73.3%
生徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	82.7%	B	80.6%
	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	89.2%	A	93.5%
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	86.5%	A	100.0%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	B	81.6%	A	95.8%
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	80.1%	A	85.1%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

◎ 中間報告以降の9月から1月までの平均時間外勤務時間は、前年度より一人当たり月12時間（R3:7時間）の減少となった。20時までの退校、仕事内容のデジタル化による勤務の効率化など、時間の有効活用を意識している。

◎ 「報告・連絡・相談」の声掛けを徹底し、意識向上を図ってきた。管理職に対しての報告・連絡は、当然であるが、職員全体での共有を職員朝礼やC4thなどの電子媒体でも共有できるようにした。

《職員の平均時間外勤務時間》



△ 生徒指導に関する「報告・連絡・相談」が増えたことで、保護者への家庭連絡、生徒に対する指導も増えている。「早急で」「こまめに」「真摯に」対応を行っていることが、生徒 B2、保護者 ④⑤などの割合減少につながっているものとする。

(4) 地域社会の一員として信頼される学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。			○月2回以上、学校HPを更新する。			
② 学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。			○学校評価結果を学校HPで公開する。			
③ 地域人材や施設を積極的に活用し、社会に開かれた教育課程の構築を進める。			○各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。			
質問内容			判定		R4 中間	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	D	42.9%	D	46.7%
	②②	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	B	71.4%	D	46.7%
	②③	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	B	71.4%	A	86.7%
保護者	①①	教職員は、保護者との連携を密にしている。	A	92.0%	A	95.7%
	①②	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	88.8%	A	93.6%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

◎ 「情報発信」に関する保護者アンケートは下がったが、学校のホームページは随時更新し、積極的に学校の活動の様子を発信している。昨年2月から今までのホームページの閲覧数は、1日平均約910件の閲覧数であった。また、学校日より、保健便り、学年便りなども定期的に発行し情報発信している。⑫

○ コロナ禍により感染防止の観点から制限をかけて行った行事もあったが、通常に近い状態で教育活動ができるようになってきた。また、地域人材や施設を活用し、社会に開かれた教育課程の構築を進めるために可能な限り外部の人に学校に来てもらい授業や講演を行った。

3年生は有権者教育(模擬投票)や金融教育(投資)、2年生は海洋教育(鳥賊の解剖等)、1年生は職業人講話などを行った。今年度は90名を超える来校者があった。⑫

△ 進んで挨拶をする生徒が少ないので、挨拶がない場合は教師側からするようにしている。また、授業中においては、授業の約束4か条(着ベル、あいさつ、準備、姿勢)を意識した取組を全職員でおこない、指名したときなど、返事がかえってこない場合は返事をするようにうながすなど、あいさつができる生徒の育成に努めている。⑦

《金融教育》

《海洋教育》

《職業人講話》

